

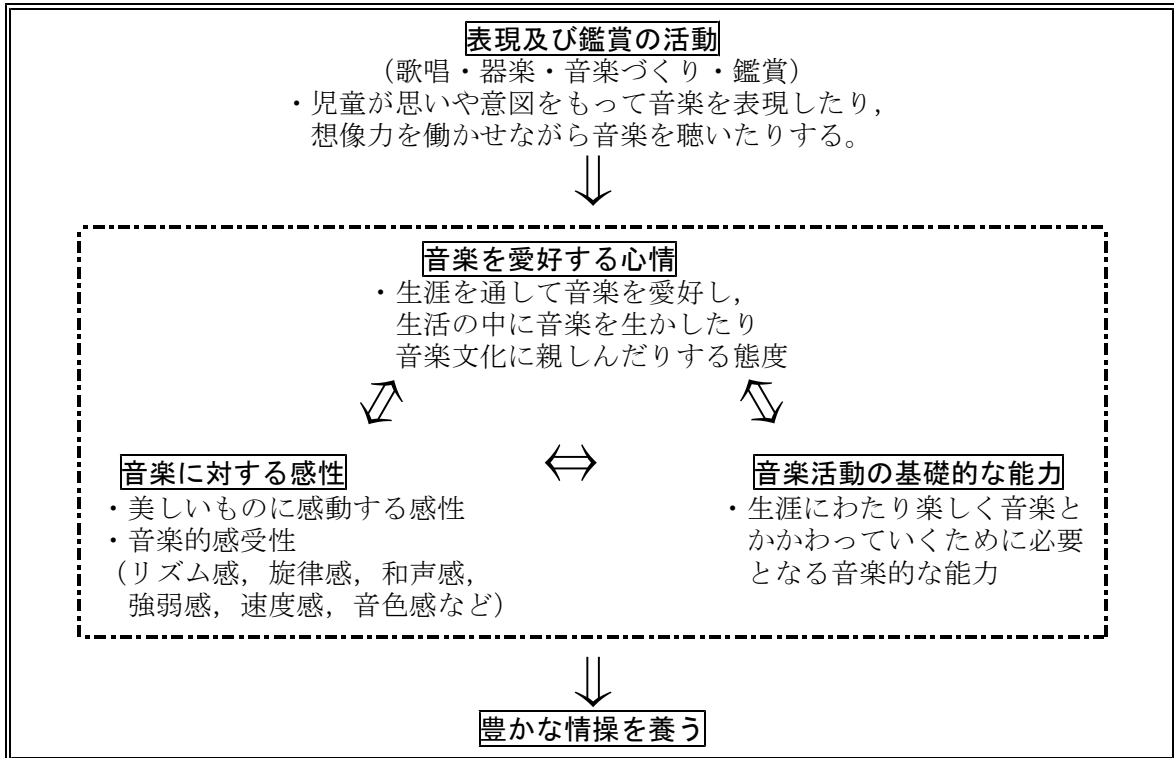
# 音楽科

## 1 音楽科でねらうもの

### 学習指導要領の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

音楽科の指導において、「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「音楽活動の基礎的な能力」という心情、感性、能力の三つは密接な関係にあるため、音楽教育のすべての過程で、常に児童の情意面と能力面とをかかわらせながら指導に当たることが重要である。また、心情、感性、能力を互いに関連させ合いながら育成することによって「豊かな情操を養う」ことができる。



## 2 学習指導要領の特色

### (1) 基本方針

- ① 音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。
- ② 音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。
- ③ 鑑賞活動は、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるようにするとともに、根拠をもって自分なりに批評することができるような力の育成を図るようにする。
- ④ 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

### (2) 具体的事項

#### ① 構成について

「A表現」の指導項目は、歌唱、器楽、音楽づくりごとで内容を構成している。

#### ② 〔共通事項〕について

〔共通事項〕は、表現及び鑑賞のすべての活動において、共通に指導する内容を示している。し

A 表 現			B 鑑 賞
歌唱	器楽	音楽づくり	
共 通 事 項			

たがって、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。 ※音楽を形づくっている要素には、歌詞、歌い方や楽器の演奏の仕方、演奏形態なども含む。		
1・2年	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素	(イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み
3・4年	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ、音の重なり、音階や調などの音楽を特徴付けている要素	(イ) 反復、問いと答え、変化などの音楽の仕組み
5・6年	(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ、音の重なり、音階や調、和声の響きなどの音楽を特徴付けている要素	(イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み
イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。(全学年)		

③ 指導内容について

音楽学習が児童の生活とかかわりのあるものとなるように指導する。

	表現(共通教材曲)	鑑賞(和楽器を含めた我が国の音楽指導の充実)
1・2年	4曲すべて扱う。	我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうたなど
3・4年		和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活とのかかわりを感じ取りやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など
5・6年	4曲中3曲を含めて扱う。	和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化とのかかわりを感じやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など

④ 音楽づくりについて

児童が自らの感性や創造性を働かせながら、自分にとって価値のある音や音楽をつくる活動である。

1・2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>声や身の回りの音の面白さに気づいて音遊びをする。</li> <li>音を音楽にすることを楽しみながら音楽の仕組みを生かし、自分の思いをもって簡単な音楽をつくる。</li> </ul>
3・4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな音の響きや組合せを楽しみながら様々な発想をもって即興的に表現する。</li> <li>音を音楽に構成する過程を大切にしながら音楽の仕組みを生かし、自分の思いや意図をもって音楽をつくる。</li> </ul>
5・6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな音楽表現を生かしながら様々な発想をもって即興的に表現する。</li> <li>音を音楽に構成する過程を大切にしながら音楽の仕組みを生かし、つくろうとする音楽について見通しをもって音楽をつくる。</li> </ul>

3 道徳との関連

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

なお、音楽の共通教材は、我が国の伝統や文化、自然や四季の美しさや、夢や希望をもって生きることの大切さなどを含んでおり、道徳的心情に資するものである。

4 音楽科における言語活動

鑑賞領域の各学年の内容に、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いたり理解したりする能力が高まるようにする。